



健康社会

大田区健康経営事業所 認定制度の構築



世界で類を見ない少子高齢化のわが国において、労働生産人口は減少しつつあり、労働年齢も高齢化しています。人生100年時代の中、生涯現役であるためには、働く世代の健康確保が重要です。大企業や中小企業、町工場も多く点在する大田区で、経営に健康を取り入れた大田区独自の認証制度を構築しました。

KEYWORDS 健康経営、大田区、産業保健

RESEARCHER

医療保健学部 看護学科 教授 五十嵐千代



主な学会発表・論文・著書・社会活動

- [1] 中小企業も取り組みやすい地方自治体独自の健康経営認定事業所制度の構築, 日本産業衛生学会(2020)
- [2] おおた健康プラン推進委員, 大田区健康経営事業所審査委員長, 大田区自殺総合対策協議会会長(2019)
- [3] 中央災害防止協会 緑十字賞受賞(労働衛生部門)(2019)

01 | おおた健康経営事業所認定

経済産業省認定の健康経営認証は、小規模事業所にとって、ハードルが高いことと、認定基準が、食事・運動・禁煙などの健康づくり活動に焦点があたっていることから、ストレス対策、過重労働対策、有害業務管理など、労働衛生としての法遵守をしていない所謂ブラック企業がホワイト企業を取得する見かけだけの健康経営事業所が問題になっています。そこで、2019年に大田区の健康医療政策課とともに、事業者が従業員の健康を戦略的に推進する健康経営の仕組みを構築し、大田区で働く人が生き活きと元気で働けることを目指しました。地方自治体独自の取り組みに注目が集まっています。



02 | 大田区長も本プロジェクトに期待！

大田区で働く人々が元気で生き活きと働くことは、大田区の産業の活性化に繋がり、経済的活動に直結します。松原忠義大田区長も、本プロジェクトに多大な期待をよせています。2021年度認定は、ゴールド1社をはじめ、シルバー、ブロンズ合計23社が認定となりました。大企業だけでなく従業員数50人未満の事業所も12社あり、事業規模も様々でした。健康経営は企業価値を生みますが、本事業によりリクルート活動にも好影響が出ているとの事です。ロゴマークは日本工学院の学生の作品で、大田区健康経営の趣旨を表現したものとなっており、さらなる発展を後押ししています。

